

# 言葉はイメージ決定の要因となるか？

## —言葉と音楽と視覚のイメージ考察—

「デザイン概論」の授業に組み込んでみて

Can Words Become the Factor of the Image Decision? :

Study on the Words, Music, and Visual Images.

林田廣伸・多田茉央

Hironobu HAYASHIDA, Mao TADA

### 1. はじめに — 研究の動機

グラフィックデザインの教員生活を始めて 15 年になるが、長年、探ってみたい事があった。グラフィックデザイン演習等で、学生がアイデアを考え制作する上でその基となるテーマの提示は、言葉や文字によるものである。教員が提示したテーマの言葉や文字から、学生は各自のイメージを膨らませ試行錯誤の末、作品を完成する。テーマを提示する事は、追求する概念や世界観を限定することでもある。デザインするというプロセスには、あらかじめ目的があり、それをデザインによって解決する。教育においてもこのテーマの提示は、教員として、たいへん重要な行為であり、悩むところでもある。2 年次の基礎演習では、広く捉える事ができるテーマにし、3 年次には、メディアにあったテーマを提示しコンセプトを構築できるよう促し、4 年次の卒業制作においては、テーマを学生自らが考え、制作するという流れをとっている。

テーマを自らが考える卒業制作においては、筆者は学生に「どういうモノを制作するのか、明確な言葉で示してください。」と言うことにしているが、学生にとってなかなか難しいよう

である。「言葉が出ないから、ヴィジュアルにするのだ!」と言いたげである。しかし、言葉が出た学生はヴィジュアルも進む。言葉が出ないとヴィジュアルも進まないのである。

実はヴィジュアルはテーマ性を内包している。だから言葉がなくとも、そこに描かれたテーマは提示する事ができる。しかし、それを概念として構築するのは言葉である。言葉は、漠然と考えていることを整理する唯一の方法である。言葉は、長い時間をかけて人間が紡ぎ出した英知と言える。

「言葉はイメージ決定の要因となるか?」この事を何とか検証したい。

### 2. イメージとは何か?

辞書などを引くと、イメージとは、心に思い浮かべる情景や人の姿、モノのかたち。心象。想像した物事。とあるが、人が心に思い浮かべる(心象)ということ定義するのは難しい。人が人生に於いて思い浮かべる広範囲な事柄を、簡単には言えない。しかし、イメージとは、人が心に思い浮かべる(心象)ということが何よりも大きな定義であろう。つまり私たちが見る風景や人の声そのものは、イメージではない。私たちの心を通して感じた風景や人の声や、そ

の言葉などを心に思い浮かべる事が、イメージである。

例えば、今まさに夏の入道雲を眺め、感じ、何かを心に思い浮かべれば、それはイメージである。入道雲を眺め何かのイメージが浮かぶ。これは入道雲そのものを眺め思い浮かべたのだからイメージの時間的差はない。時が過ぎ、冬になって、夏に見た入道雲を、ふと思い浮かべる事もある。この入道雲が実は 30 年も前に眺めた入道雲で、今でもはっきりイメージする事ができる場合もある。(実は筆者は昨日のイメージは忘れ、遠い昔の記憶が正確なイメージとしてリアルによみがえってしまう。年を取ると、そうなると言われる。)そして、人間の心というのはもっとエモーショナルで、その時入道雲と一緒に眺めた人の事をイメージしていたりする。その時のその人の声、空気の匂いまでも鮮明にイメージが蘇るのである。

「記憶イメージと想像イメージ、そして創造イメージ。」

#### ●記憶イメージ

記憶イメージとは、前述したように、人間が記憶するイメージである。記憶は記録の要素もあるが、その正確さという点では曖昧である。なぜならイメージは、私たちの心を通して感じた事を心に思い浮かべる事であり、その記録性よりも、私たちがその時に感じた感情とイメージは直結しているからである。私たち人間が生きる上で、都合がいいように、いい事も悪い事もイメージされることがある。

#### ●想像イメージ

想像イメージとは、私たちが一般的に想定するイメージであろう。例えば「さあ、4 月から社会人だ。どんな社会人生活をイメージする?」とか、あるいは、「今日の晩ご飯、何がいい? どんなものイメージする?」のように私たちの生活にこの想像イメージは深く入り込んでいる。

ジョン・レノン作詞・作曲の「イマジン」という唄がある。Imagine there's no Countries. It isn't hard to do. Nothing to kill or die for「想像してごらん。国境なんて無いのだと。そんなに難しくないでしょう。(戦争によって) 殺す理由も死ぬ理由も無い。」と唄っているイマジンは、世界平和を願い、最も大きな視点から想像したイメージと言えよう。Imagine という英語は、想像する。心に描く。考えてみる。という意味の他動詞である。英語で考えてみるとよく分かるのだが、Imagine は Image の関連の言葉であり、その意味の根幹を共有している。

#### ●創造イメージ

創造イメージとは、私たちが造り上げるイメージである。英語で言えば、Creative Image と頭に Creative をつけた方が理解されやすいであろうか。創造イメージは、芸術のイメージと言えれば分かりやすいであろう。美術やデザイン、文学や音楽に至るまで、表現者はこの創造イメージをフルに働かせ制作している。そして、この創造イメージは芸術分野のみならず、産業分野でもそのイメージ力は必要不可欠である。建築のイメージや、飛行機からボールペンまであらゆる製品のイメージ。テレビや映画の映像、ポップスなど産業的音楽のイメージ。そして現在の IT 社会でのインターネットを通したコミュニケーションツール。どのように生産者と消費者をコミュニケーションするかという概念そのものも、この創造イメージと言えよう。考えてみると私たちは盛りだくさんの、与えられた創造イメージの中で暮らしていることになる。勿論、この創造イメージは、創造するプロセスに於いて、記憶イメージや想像イメージらと錯綜してイメージされてゆく。

「イメージとはより具体的な事。」

イメージとして纏まった書籍や文献は、それほど多くはない。なぜならイメージは書籍や文献の中に分散されてしまうからだ。例えば絵画

のイメージとか、音楽のイメージとか。これらイメージの周辺を少し整理したいが、「イメージとは、人が心に思い浮かべるもの。」の他、ここでもう一つの定義をしたい。それは、「イメージとはより具体的な事。」であるという事だ。(前述で記憶イメージは、記憶という点でその正確さはあいまいであると述べた。しかし、これは記録という点での曖昧さであって、イメージそのものはより具体的である。)

よく、「何となく、こんなイメージで。」というような言い方でイメージを使われる事がある。これは、まだ何もイメージが出来ていない証拠であるが、「イメージは、漠然としたモノ。」と考えているところがあるようだ。この「イメージとはより具体的な事。」はスポーツの世界でも当てはまる。ホームラン王の王貞治さんが現役の頃、バッテリーボックスに立ち、ピッチャーが投げた球を目で追いながら 0.000 秒という時間の中で、王さんはバットのスイングを瞬時にイメージするそうである。そのイメージが具体的に頭の中で完成した時、それと同じスイングが出来、ヒットやホームランになるそうである。私たちの日々の暮らしの中でも具体的なイメージは、具体的な行動となる事が感じられる。

「イメージは人間の五感で感じ、触発され作られる。」

#### ○視覚イメージ

人間が五感で得る情報の中で、視覚からの情報は雑に言うと 65% と言われている。<sup>2)</sup> 人間の五感の中で視覚からの情報が一番多いことになる。

その視覚情報を、もう一度、心の中で思い描きイメージされると、強い視覚残像として心に焼き付けられる場合がある。一枚のスチール写真のように、鮮明にイメージとして残る。また、実際に写真として残したものが、(例えば家族旅行の写真等) 記憶も含め、イメージとして私たちの心の中に定着する。

しかし私たちは視覚イメージを、余程の事が

ない限り、絵に描いてそのイメージを伝えない。普通、言葉でそのイメージの周辺を探り、心にフィットすると、明確な言葉としてイメージを語る。心の中や頭の中では、視覚としての「絵」が確かに存在するが、言葉に置き換える事が多い。そしてこの視覚は「文字」も含まれる。つまり、文字から風景や情景や人や物という視覚が、心の中でイメージされる。例えば挿絵のない小説を読んでも、私たちはその小説の世界を、心や頭の中で視覚化する作業を行う。文字からヴィジュアルが浮かび上がる。小説に留まらず、短歌や俳句に於いても、文字からヴィジュアルが浮かび上がる。短歌や俳句は文字の視覚化と言っても過言ではないだろう。正岡子規の短歌は写実主義と言われ、あらゆる技巧、装飾を排し、ありのままの世界を文字で写実している。ここに正岡子規の一首を載せる。

「瓶にさす藤の花ぶさみじかければ畳のうへにとどかざりけり」

藤棚に咲いた藤の花を、結核に冒されカリエスに触れた子規の慰めに、家人が枕元に持ってきたのであろう。病床の低い視線のヴィジュアルがありありと浮かび上がってくる。<sup>6)</sup>

小説の話に戻そう。小説の物語がよく映画化される事がある。しかし、自分が視覚イメージしていた映像と違った場合、私たちはがっかりする。そんな経験はないだろうか？ 私たちは自由に自分の好みでその小説の物語を視覚化できる能力を備えているわけだ。誰もが自分だけの映画の映画監督になれるわけである。

ここからが不思議なのだが、では、その小説の視覚化されたイメージをイメージとして伝える場合、視覚として表現する事なく、また言葉で表現する。視覚イメージは大きな媒体であり、その媒体の中で、言葉や文字が平行して生まれ、育ち、また言葉や文字として定着していくのだ。

#### ○聴覚イメージ

人間が五感で得る情報の中で、聴覚からの情報は雑に言うと 25% と言われている。<sup>2)</sup> 人

間の聴覚機能として得る情報の最大のものは、「言葉」であろう。

人類の歴史の中で「言葉」は「文字」より先にあった。そして人間にとって言葉と文字は切っても切れない関係にある。

実は言葉から文字を生み出す能力は当たり前のように思われるが、世界の中では、固有の言語はあっても、文字を持たない人々が多い。「今日、世界にある約 3,000 の言語のうち、文字を持っている言語はわずか 78。」という事実は驚くべき数字だ。<sup>5)</sup>ここにヘルマン・ヘッセの興味深い名言がある。「言葉がなければ、文字がなければ、そして書物がなければ、歴史は存在していないし、人間性という概念も生まれ得なかったことだろう。」<sup>5)</sup>誤解を恐れずに言うならば、世界を駆逐するのはロケットでもミサイルでもない。その国や民族の言葉と文字が、世界中に文化や考え方を浸透させていく。そして、この国を上げての言葉と文字こそが、国を示す巨大なイメージと言えよう。前述の言葉や文字がなければ、歴史は存在していないというヘッセの言葉であるが、この歴史自体が大きなイメージと言えるわけだ。世界の均衡は、この巨大なイメージ戦略のしのぎ合いの上になりたっているとも言える。

さて、「言葉」は「音声」である。自分の声、妻の声、夫の声、片言の幼児の声、老人の声、家族の声、友人の声、恋人の声、同僚の声、雑踏の中で聴く他人の声、テレビから流れるキャスターの声、映画の中の俳優の声、好きなミュージシャンの歌声、外国語の声などなど。私たちは何と様々な声の中で、一日一日を暮らしているかが分かる。日常では、私たちは言葉のやり取りの中で情報を得て、考え、行動しているわけだ。この言葉を音声として伝える事ほど便利なものはない。言葉を声として聴いて、高度な内容をも理解するという人間だけに備わった能力によって、人類の進歩と発展があった。この話し合うという行為は、昔も今も変わらない。現在の私たちも、波のように押し寄せて来る生

活をこなすのは会話と行動によるものだ。日々の生活の中には、さほどの時間的ゆとりもなく、日々暮らしていて、イメージをするゆとりなどないだろう。しかし、忙しい 1 日を終え、ふと今日あった事を振り返ると、その声を発した人固有の声として、リアルなイメージとして浮かび上がる。人間の顔が違いうように、人間の声も違う。声ほど固有のものはないだろう。特に親しんだ人の声はすぐに分かる。私たちがイメージするものは、未来、現在、過去と縦横無尽だが、言葉という声においては、声を発した相手あっての事で、それをイメージとして振り返ると、過去のイメージとして心に浮かぶ。それが 10 分前の事であったり、10 年前の事であったりする。忘れもしないあの人の声は、高性能のデジタル録音機以上に、鮮明に頭の中に声として浮かびあがる。とても不思議な人間の能力だと思う。

その他、自然の音。例えば、鳥のさえずり、蟬の音、秋の虫の音、潮騒、小川のせせらぎ、雨の音、風の音、雷の音などなど。生活の中で的人工的な音としては、目覚まし時計の音、テレビの音、ラジオの音、PC の音、自動車の音、サイレンの音、職場の音、雑踏の音、食事の音、食器が触れ合う音、などなど。

そして、「音楽」。クラシックからジャズ、ポップス、小唄・端唄まで。老若男女この音楽に親しんでいる。特に、多感な青春時代に聴いた音楽は、聴覚イメージとしてしっかりと定着している。そのメロディーを聴いたとたん、その時代の空気までもありありと蘇り、気持ちまでも若返る。いつの時代にも「懐メロ」は存在するわけだ。このような音楽イメージは、私たちの大切な記憶と音楽が繋がったものだが、純粋に音楽を聴いて、その音楽の意図を読み取りイメージするものがある。これが今回の研究の主要な部分であるので、次の章の「研究の方法」にゆずる事にする。

### ○臭覚イメージ

人間が五感で得る情報の中で、臭覚、味覚、触覚からの情報は雑に言うと 10% と言われている。<sup>2)</sup> 視覚と聴覚で 90% を占めてしまうわけで、残りの 10% を分け合う形になっているが、この臭覚もイメージが浮かぶ上で、重要な役割を担っている。

まず、臭覚イメージとして「食物」は、味覚イメージと共に、重要な臭覚イメージの要素だ。臭覚が効かなくなると、味覚もなくなってしまう。食物に関しては、臭覚と味覚は一体のものであろう。味覚イメージは次の項目で述べるので、ここではあえて臭覚に限定して述べたい。

分かりやすい例で「鰻」。正確に言うと「鰻を蒲焼きにしている時の香り」。今や鰻は絶滅危惧種で、筆者には高嶺の花だが、古い落語にもこういう話がある。「鰻を食べたいが金がない。それではと、鰻の蒲焼きのいい香りがしている店の鼻先に立ち、その鰻のいい香りの煙を吸い込みながら、どんぶりに用意したメシだけをかっ込む。」鰻の蒲焼きの香りほど、食欲をそそられる匂いはないだろう。その他、食欲をそそられる香りとして、ステーキを焼く香り、天ぷらを揚げる香り、蕎麦のだしの香り、みそ汁の香り、ご飯を炊く香り、などなど食品を調理する時に出る香りは、健康な胃袋には、食欲という体が欲する生理的現象と臭覚イメージが一致する。

突然だが、一時期、筆者は下手な川柳を書いていて、雑誌に投稿したところ、掲載された。紀要論文として品位を下げてしまうかもしれないが、その掲載された作品を載せたい。

「カレー香り ふと立ち止まる ひとの家」

秋の夕暮れ時、家々の明かりがポツポツと灯る頃。家路を急ぐ筆者の鼻先に、夕餉の香りが漂う。夕餉の香りは暖かく、何故か切ない。いろいろな夕餉の香りの中で、カレーの香りに出くわすと、歩いている足がピッタと止まってしまうのである。

何と言っても夕餉の最高峰の香りはカレーで

あろう。このカレーの香りには強さ、逞しさ、そのカレーの香りを発している家庭の団結さを感じる。そして、夕餉のカレーの香りは、ひた向きの日本庶民の生活の象徴的臭覚イメージとも言えよう。この時いつも筆者は思う。「私にも帰れる家があつて良かった！」と。

その他、森林の香りや海の香りなど、地球の恵みとも言える自然界の香り。これら自然界の香りは、生理学的にも人体により影響を与える。

飲み物ではコーヒーの香り。生活の中でのちょっとした安らぎや休憩をイメージするアクセントにもなっているように思う。

果物ではバナナや桃は、甘い特有な香りを放つ。花では薔薇や百合も特有な香りを持ち、美しい花の視覚的存在と、花の香りという臭覚的存在が、その花の世界を醸し出す。

花の香りで、筆者が記憶としていつまでも残っているイメージがある。それは、藤の花。（正岡子規の短歌も藤の花であったが。）筆者が小学 2 年生まで暮らしていた平屋の家には藤棚があった。4 月の下旬頃になると、淡い紫の藤の花房から、上品な藤の花の香りがしてくる。藤の花の香りはそれほど強くはない。あくまで謙虚な香りである。縁側から降りて、この藤棚の下で、成田山で買ってもらった木の刀を持ってよく遊んだ。その情景を写した 1 枚の写真がある。60 年近く前の事だが、今でも 4 月下旬になり藤の花が咲く頃になると、その写真の視覚イメージと共にかすかな藤の花の香りが蘇る。今は住んでいる所も違うし、藤棚もない。だから、公園や近所の家で藤棚を見つけると、藤の花に鼻を押しつけ、微かな藤の花の香りを楽しんでいる。

### ○味覚イメージ

味覚イメージは、聴覚イメージの固有の声や、臭覚イメージの固有の香り同等、固有の物である。つまり苺の味は、(多少の固有差はあっても) 苺の味以外の何物でもないということだ。苺の形や色を示す苺の絵は描けても、苺の味は描け

ない。また、苺の味について、あらゆる言葉を用いて文章にしても、苺の味そのものには決して到達しない。しかし、苺を食べた事がある人ならば、その人の頭と心の中で、苺の味を思い浮かべる事が出来る。人間の感覚機能はすばらしい。苺の味そのものは、他の表現には置き換えられないものの、「苺の味をイメージしてください。」という文字をみれば、大方の人は、苺の味を思い浮かべる事が出来る。味覚イメージはこのような特性を持っているわけだ。

味覚は、前述したように臭覚が効かなくなると、味覚もなくなってしまう。食物は、食物の香りを感じて初めて「味」として認識できるわけである。また、食物は舌で味わうと同時に、目で味わう、心で味わうとも言われる。視覚的に美しい日本料理や、熱い鉄板の上でジューと焼かれるステーキなども視覚的な要素であろう。そして、ジューという音は聴覚の刺激である。美味しい表現方法として「シズル感」という言葉があるが、ジューという音からその言葉が生まれたようだ。食事をする時（咀嚼時）には当然、自分の嚼む音が聴こえる。家族や友人と食事をすれば、その咀嚼音が聴こえる。これが何ともいいわけだ。もし、この咀嚼音が聴こえなかったら、食事は文字どおり「味気ない」ものになってしまう。ざる蕎麦をすする音、タクワンを嚼む音など、下品な食べ方をすると美味しそうな音にはならない場合があるので注意したいところだが、本当に美味しそうな音を立てている人に出会うだけで、腹の虫が鳴ってしまう。最後に味覚に於ける触覚だが、味覚とは、生理学的には、甘味、酸味、塩味、苦味、うま味の 5 つの味が基本味に位置づけられるが、「舌で味わう」とはここに「舌触り」という食感が入ってくる。筆者が好きな食感は、タコの吸盤部分、梨やリンゴやスイカのサクサク感、子持ち昆布のツブツブ感、鮭缶の骨部分、いつまでもしゃぶり続けるスルメ、新鮮なわかめ、サクサクの天ぷらやフライなどなどキリがない。味覚とは、味覚自体感じるものであり、味

覚そのものがイメージとも言える。そして味覚イメージは味覚、臭覚、視覚、聴覚、触覚と五感全てを使って感じているわけだ。

「食は心で味わう」という言葉がある。美味しいと想う心が大切であるということであろう。どんなに忙しくとも、心穏やかに、五感を使って食事をすれば、どんなものでも美味しいと思える。

### ○触覚イメージ

触覚イメージとは、人間が行動した時に何かに触れ感じたこと。まず、最初にスポーツを取り上げよう。王貞治さんのバッティングイメージを前に述べたが、トップアスリート、プロ、アマチュア問わず、人間が体を動かすその運動感覚はイメージによって作られていくと言っても過言ではない。通常スポーツは道具を使う。野球で言えばバットやグローブ、野球ボール。サッカーで言えばサッカーボールやスパイクなどなど。その道具との触覚イメージがたいへん重要になってくる。また、あまり道具を使わない水泳に於いても、水との抵抗感をイメージするし、相撲に於いては、まさに人との強烈な触れ合いをイメージするわけだ。練習を積んだとは言え、瞬時に動く人間の運動機能は素晴らしさを超え驚異だ。その驚異を生む練習こそ、こう成りたいというイメージの積み重ねであろう。音楽の世界も同じで、ピアニストやバイオリニストは楽器という道具と身体が一体化するほど練習を積み重ね、自分がイメージする音へと挑戦していくわけだ。美術の世界に於いても、彫刻や陶芸は粘土などの素材と道具を使って土を捏ねる触覚イメージであり、油絵や日本画に於いても、筆とキャンバス、和紙を使っての筆運びという触覚イメージである。

もちろん普通の生活の中に於いても触覚イメージを保って、私たちは生活している。例えば自動車の運転、自転車に乗ること、愛するペットと触れ合い、動物や植物、昆虫との触れ合いなどたくさんある。

そして、人間同士の触れ合い。これほど大きな精神的な触れ合いはないだろう。母と子の触れ合い、恋人同士の触れ合い。ビジネスや政治の世界に於いてさえ、握手という触れ合いがある。

普段これらを私たちは常にイメージしているという感覚はないだろう。しかし人生とは時の流れそのものである。人生は生きている限り、止まらない。その止まらない人生の中で、私たちは何をしているのか？私たちは「今」の為に常に学習しているのだ。（筆者などは牛の歩みであるが。）この学習とは、たった今、過ぎ去った情景や想いや感触を瞬時にリフレインして、つまりイメージして、次の行動をしていると言えよう。

### ◎ 体感イメージ — 人間の五感を使って感じるイメージ —

ここまで、視覚、聴覚、臭覚、味覚、触覚と述べてきたが、人間が心に思い浮かべるイメージは、この五感を使って感じ、イメージしているということだ。視覚イメージは確かに強いイメージであるが、イメージするものによって、聴覚が強かったり、臭覚が強かったりする。また、五感すべてを使うイメージもあれば、視覚と聴覚と臭覚の合同イメージという場合もある。

ここで、別の切り口でイメージを考えてみよう。

#### ・季節により感じるイメージ

私たちの住む日本列島は四季が豊富だ。季節の変化の中で、台風や豪雪などの災害もあり辛いことも多いが、季節ごとの実りや、季節による環境の変化は、私たちの生活に大きな喜びも与えてくれる。中国の暦である二十四節気七十二候を、日本の四季に合わせ改良した日本人の季節を感じる心は、たいへん奥が深い。

#### ・気温や湿度により感じるイメージ

気温や湿度は季節との関わりが多い。だから

季節の変化を感じることは、気温や湿度の変化を感じることでもある。人体にとって、この気温や湿度が肉体的にも精神的にも多大な影響を与えている。真夏にお正月の気分にはならないだろう。（もっともお正月をハワイで迎えるという時代でもあるが。）

学生に出すデザイン課題で、「暑中見舞い状」は6月下旬に出しているし、「クリスマスソングのCDジャケット」は12月に出している。気温や湿度を体感し、イメージすることが大切だと思う。

#### ・早朝や深夜など時間帯により感じるイメージ

早朝のすがすがしい空気。今日という日のなごりの空気を含んだ深夜。洗濯洗剤のコマーシャルは、真っ青な空の朝がふさわしい。（まあ、深夜にコインランドリーで洗濯するイメージもリアルだが。）また、ウイスキーのコマーシャルは、夜の帳が降りて、ちょっと思わせぶりなネオンの光がふさわしい。

#### ・その他、時間軸でのイメージ

##### \* 過去・現在・未来のイメージ

自他含め、人生という時間の中での過去・現在・未来のイメージ。

自他含め、所属する世界（職場や家庭）の過去・現在・未来のイメージ。

世界の過去・現在・未来のイメージ。宇宙規模の過去・現在・未来のイメージなど。

##### \* 歴史的イメージ

私たちが文字を通して学んだ、人間の歴史から浮かび上がるイメージ。

##### \* 明治・大正・昭和（または年代）のイメージ

その人間の歴史の中で、近年のイメージ。思想や文化などあるスタイルを持ったイメージとも言えようか。

#### ・喜怒哀楽により感じるイメージ

人間の感情（喜怒哀楽）は、不思議だ。悲しいことを一旦忘れても、また、波のように悲しみが突然襲ってくる。また、お腹を抱えて笑うということは、何が可笑しいかということ、たいして可笑しいことでもないことが多い。ただ、

可笑しいのは、相手のちょっとした言い方や、「間」だったり、無性に可笑しいことがある。だから、その場にいないと可笑しくも何ともない。怒りも同じで、その場が過ぎれば、頭が冷えて怒りはおさまる。

感情は咄嗟に出るものである。考えて出るものではない。(紳士・淑女に於いて、怒りはコントロールしなければならないが。) だから、イメージして喜怒哀楽を出すわけではない。しかし、楽しかったこと、悲しかったこと、笑ったこと、泣いたこと、喜んだこと、傷ついたこと、みんな憶えている。自分から出た感情をイメージとして憶え蓄積されている。

### ● 心理学辞典からのイメージ記述

重複する部分もあるが、ここで心理学的観点からのイメージを誠信心理学典から引用しよう。イメージ[英 Image 独 Bild, Vorstellung] 像、表象、心象などの訳語が使われる。類似の用語で観念 [Idea], Representation などが使われたりする。英語の Image は独語の Bild の意味で、すなわち、像の意味で使われる。このときは、記憶しているもの、あるいは刺激となる対象物が目の前にないときに、「思い出し、再び表現する [Re-present] 意味を持っている。

Vorstellung の意味では、視覚的、聴覚的、触覚的イメージなどのように知覚対象の再生された直観的な心象を意味している。

日本語の「表象」という用語は、独語の Vorstellung, 英語の Representation の意味でも使われている。「過ぎ去ったものの姿を再び眼前に示すという意味であり、観念とあまり違いがない。

もっと抽象的な意味でイメージは使われることがある。ある考え、態度、概念、などを意味したりする。例えば企業イメージなどと言うときは、企業に対する態度、期待、総合的な印象などを意味している。また、経済などの構造概念としても、イメージという言葉が使われる。<sup>3)</sup>

### ● イメージとシンボル

そもそも筆者はシンボルに興味があった。何故かと言うと、グラフィックデザインの中でシンボルは重要なものであるからだ。グラフィックデザインに於けるシンボルを分かりやすい例で言うと、シンボルマークだ。シンボルマークは団体や企業を象徴的にマークとして示すものである。オリンピックの五輪マークというすぐに分かるだろう。古くからの日本の企業にもシンボルマークはたくさん存在する。月のマークの花王石鹸、花椿のマークの資生堂化粧品、薔薇の包装紙の高島屋など。製品のシンボルマークもある。三ツ矢サイダー、ブルドックソース、近年ではサントリーの缶コーヒーのボス(パイプをくわえたおじさん) など切りがない。私たちは視覚に飛び込んで来たこのシンボルマークによって、団体や企業、製品がおおよそどのようなものであるかを瞬時に判断しているわけだ。

そして、このシンボルはシンボルマークだけではなく、デザインそのものを思索する上においても重要である。デザイン概論の授業でも「視覚デザインとシンボル」という項目をたて解説している。その一部を紹介する。

「人が何かを伝えようと思うときは、人はその内容を必ず、意味作用のある記号を用いて伝える。」記号 [Sign] は、シンボル [Symbol] とシグナル [Signal] の二つに別れる。シンボルは、観念として頭に思い浮かべること。または、浮べたものであり、シグナルは、表象を媒介とせず、直接反応を引き起こすものである。例として、学校のチャイム、交通信号、電車の発車合図、天気図のマークなど。<sup>1)</sup>

シンボルに話を戻すと、「薔薇の花そのものはシンボルではない。シンボルとは、薔薇の花という言葉、薔薇の花の絵、薔薇の花の写真や映像、そして、薔薇の花という頭の中にあるもの。」つまりシンボルとは、薔薇の花から離れ、薔薇の花についての表象(心に描く、心に浮かべること)を示すものである。<sup>1)</sup>



このように考えて行くと、イメージとシンボルは同義語であることに気付く。

### ● 日本人のイメージ感の一例

東京都小金井公園内にある江戸東京たてもの園で開催されている「ジブリの立体建造物展」に行ってきた。(期間：2014年7月10日～12月14日 主催：東京都・江戸東京たてもの園・スタジオジブリ) ジブリのアニメーション映画に登場する建物だけを視点にした展示で、製作過程が分かる豊富なスケッチや、質の高い原画、そしていくつかの建物の立体模型が展示され、たいへん見応えがあった。監修を建築史家・建築家の藤森照信氏がなされ、建物と建物にまつわる文化について、深い解説とコメントが、それぞれの建物一つ一つに会場のパネルと図録にて紹介されていた。

その中で、「かぐや姫の物語」(監督：高畑勲 2013年制作)についての藤森氏の解説がたいへん興味深かったので、日本人のイメージ感として、ここに紹介する。

#### 「かぐや姫と竹」

竹を使った建築で有名なのは、桂離宮です。江戸初期につくられた桂離宮の建物と庭園は、ドイツ人建築家のブルーノ・タウトが「泣きたくなるほど美しい」と言ったほど、簡素にして端整な美意識が隅々まで行き渡っていますが、もともとこの地は「月の桂」と言われるほど、観月の名所として知られています。周囲にめぐらした竹の生垣をはじめ、建物にも竹が多く使われていますが、いちばん大事な場所は古書院という建物にある月見台です。池に面した縁側の先に、竹簀子張りのテラスのような台があり、まさに月を見るための装置です。僕はきっと竹簀子に月影が映ったはずだと思い、真新しい竹で同じような簀子の台をつくって満月の夜に実験してみたことがあります。ちゃんと映りました。つまり、書院のなかにいる人が、簀子に映った月に誘われて月見台に出てみると、池には月影が映っていて、空を見上げると本物の月

が浮かんでいる。というふうにつながっていたんだらうと思います。当時の豊かな想像力をもった人たちにとっては、月へと導かれていく、まさに「かぐや姫状態」になるための舞台装置だったんじゃないでしょうか。日本の美意識として、直接見るよりも、池に映った月を見たり、簀子の月影を見たり、虚像を見るほうが、風情のある洗練された振る舞いだったんです。<sup>7)</sup>

(林田)

### 3. 研究方法

この研究は学生の「イメージトレーニング」の一環である。人がイメージを思い浮かべるという行為は、前述のように多様な事柄が錯綜しているわけだが、ここでのイメージはデザインコースの学生が、デザインを考える時のイメージ「創造イメージ」である。これをこの研究のイメージの前提とする。

「言葉はイメージ決定の要因となるか？」この事を検証する為、まだ誰も聴いた事がないオリジナルのインストゥルメンタル曲を学生に聴かせ、その曲のイメージを言葉(文字)とスケッチで表現してもらった。(A4サイズ1枚の調査用紙を作成し、学生1人に1枚配った。)つまり、曲を聴いた聴覚イメージを創造イメージに導いていくというイメージトレーニングである。

曲はまだ誰も聴いたことがないオリジナルの曲でなければならず、林田の自作曲をギターで生演奏した。曲は林田が「五月の風」をイメージしたもので、曲のタイトルも「五月の風」である。演奏時間は2分。

1年次配当の授業、デザイン概論(前期)において30分程の時間を充て、2回試みた。30分の時間配分として、調査要旨の説明と調査用紙の記入方法、そして演奏時間を入れ約7分。残りの約23分の時間を使って学生は調査用紙に記入した。(そもそもこの研究はデザイン概論の授業の一環として行った。)

1回目は2012年5月17日(木) 11:30～

12:00、調査対象学生 64 名。2 回目は 2014 年 5 月 22 日 (木) 11:30 ~ 12:00、調査対象学生 59 名に行った。

「言葉はイメージ決定の要因となるか？」を実証する為、1 回目には曲のタイトル「五月の風」の文字を調査用紙に印字し、言葉でも「五月の風」という曲です。」と学生に言った。2 回目は「五月の風」の文字と言葉と提示することなく、インストゥルメンタルの曲だけを学生に聴かせ、学生がイメージするものを言葉とスケッチで表現してもらった。つまり、イメージをタイトル(言葉)にした 1 回目は、イメージ作りにどの位、言葉の影響を受けるか、2 回目はどの位、影響を受けないかの差を調べた。

(林田)



2014 年 調査風景 撮影：多田栄央



2014 年 演奏曲を聴く学生 撮影：多田栄央

#### 4. 研究結果と考察

後のページにある(表 1)は 2012 年 5 月 17 日 (木) に調査した 1 回目の表であり、学生が調査用紙に記入した文字をピックアップして表にまとめたものである。

(表 2)は 2014 年 5 月 22 日 (木) に行った 2 回目の表である。

「五月の風」の文字と言葉を提示した 1 回目(表 1)は、具体的なイメージ記述に「風」という言葉が含まれる文章が 64 名中 37 名であったのに対し、「五月の風」の文字と言葉を提示しない 2 回目(表 2)は、59 名中わずか 4 名という結果であった。

結果としてイメージを「五月の風」と言葉にした 1 回目が、言葉の影響をかなり受けているのが分かる。

また他にも、表 1 で「五月の風」というタイトルに影響を受けている事は、「さわやか」「あたたかい」「新緑」「春」などのイメージが多い事からも明らかである。表 1 では「五月の風」と言っている為、当然「春」が前提であるのに対して、表 2 では「春」と言葉で記述があったのはなんと 1 名のみであった。(表 2 イメージ「朝」の項目参照)そして、表 2 では 5 月にアンケートを実施したことからこれから迎える夏を感じ、「夏」や「海」などの記述も多くみられた。2. イメージとは何か?でも述べている「季節により感じるイメージ」と「気温や湿度により感じるイメージ」が働いた結果かもしれない。

その他、表 2 では「夕日」「故郷」などのイメージも多く、切なさや懐かしさを表 1 の「五月の風」よりも感じているようであり、イメージの広がりが多い。表 1 の「五月の風」という言葉から感じるイメージとして、さわやかさを感じ、切なさや懐かしさはあまり感じなかったと考察する。曲本来のイメージから、全体に共通しているイメージは「おだやか」「やすらぎ」「癒し」「さわやか」であった。(多田)

その他、調査用紙の中に、「全体的な感想があれば、お願いします。」という項目があり、ここにいくつか抜粋する。

○ 2012 年「5 月の風」と言っている調査用紙からの抜粋

- メロディーがきれいで、「5 月の風」というタイトルとぴったり合っていると思いました。
- 5 月らしいあたたかい感じがして、穏やかな様子が伝わってきた。静かだけど風が吹くことによって、木の葉が舞っていたり、揺れている様子がよかった。
- 落ち着いた音楽で、穏やかな気持ちになれる曲だなと思いました。曲を聴いて私なりのイメージがすぐに浮かんできました。
- アコギの音と曲が 5 月という初夏にぴったりの感じでした。
- 穏やかな気持ちになるいい曲でした。映画とかのエンディングみたいです。
- 「5 月の風」は眠る時に聴いたらすぐ眠れそう。
- ちょっと春らしい、ちょっと夏らしい、そんな風が吹いているのが感じられました。心がリラックスする感じでした。
- 慰めてくれそうで、気持ちが和やかになる。
- よいお昼寝ができそうな曲でした。ギターの音色がとてもきれいでした。5 月という季節感も感じとりやすかったです。
- 心が穏やかになり、気分が癒されました。また聴きたいです。
- 爽やかさが感じられる曲。心が自然と和やかになる。
- 爽やかでした。朝に聴いたらよい 1 日を過ごせそうです。
- 晴天で爽やかな感じがした。色彩的には水色とかグリーンとか鮮やかな感じ。

○ 2014 年「この曲を聴いて」と言っている調査用紙からの抜粋

- 題名がないと自分でこんなのだろうな～と想像の幅が増えることを知りました。
- 題名を知らない状態でイメージしてスケッチするということは、とても難しかった。
- イメージを絵にするのは難しいけど、想像力が刺激されてすごく楽しい！
- この曲を聴いて、いろいろなイメージが出てきたので、面白かったです。
- 一つの曲を複数人で聴いて、自由にそれぞれが発想するのは、面白い。
- しっとりとしていて、とても好きです。寂しさも感じるが、その中に希望を感じられるような曲でした。
- スローな感じで、時間がゆっくりと、落ち着く感じがしました。落ち着く中に少し悲しい、しんみりした感じも入っているなど、私は感じました。
- のどかな感じで、とても良かった。昔を振り返るような時の BGM によく合うと思う。
- 懐かしい。一番最初に住んでいた家を思い出した。
- 落ち着く曲で、寂しげで。でも元気ががんばろうって思える曲で、とても素敵でした。
- 聴いていてリラックスできる曲調でした。とても落ち着きました！
- 全体的に静かな雰囲気、自然の中にいるようなイメージが浮かんだ。ホッと一息つけるような丘のような印象を受けた。
- 聴くだけで心が穏やかにスーッと落ち着きました。
- 何となく心が落ち着いた感じがした。南国に行きたくなった。
- イメージがすぐ頭に思い浮かびました。
- とにかく海の波が浮かんできました。
- 最初のイメージは「新緑」でしたが、聴いているうちに正反対の「冬の夜」を思い浮かべました。
- 今にも夏の風が吹いてきそうだった。

以上の感想からも、2012 年の「5 月の風」

と言ったものは「5 月の風」というイメージが大きく影響していることが分かる。2014 年の「この曲を聴いて」では、発想が自由でイメージが限定されていないことが分かる。

(多田・林田)

演奏した「5 月の風」を YouTube で聞く事ができます。

5 月の風／Wind of May Beatle Tetsujin 林田廣伸で検索していただくか、下記を打ち込んでいただければ、ご試聴出来ます。

<https://www.youtube.com/watch?v=R7jJtexn4iY>

#### 引用・参考文献

- 1) 飯岡正麻、白石和也：デザイン概論，ダヴィッド社，東京，1997.p.201-205.
- 2) 川勝久：新広告の心理，ダヴィッド社，東京，1974
- 3) 外林大作、辻正三、島津一夫、能見義博：誠信心理学辞典，誠信書房，東京，2007. p.24
- 4) John Berger、伊藤俊治 訳：イメージ，ちくま学芸文庫，東京，2013. p.12-17.
- 5) Maryanne Wolf、小松淳子 訳：ブルーストとイカ，インターシフト，東京，2011. p.371
- 6) 森本哲郎：ぼくの哲学日記，集英社，東京，1999.p.261-271
- 7) 藤森照信、宮崎駿、高畑勲、鈴木敏夫、種田陽平、早川典子：ジブリの立体建造物展，株式会社スタジオジブリ，東京，2014.p.53

言葉はイメージ決定の要因となるか？

デザイン概論 シンボルとイメージについて 実施日時：2012年5月17日 11:30～12:00 学生数：64名  
設問：「5月の風」を聴いて

(表1)

全体のイメージ	イメージ	具体的なイメージ記述	人数	大きな印象				
「風」という言葉が文章の中に入っている	さわやか、おだやか、あたたかい、草原、新緑、春、夕日、海辺、自然、のどか、夕暮れ、海	やさしくあたたかい風 (3名)	37名	おだやか、やすらぎ、癒し、さわやか				
		5月のあたたかくやわらかい風が吹いている (3名)						
		さわやかな海風、朝、女性 (2名)						
		晴れたあたたかい日の午後、黄昏れている、風も程よく吹いている (2名)						
		さわやかな初夏の風 (2名)						
		永遠に広がる草原に、ゆるやかな風が吹いている (2名)						
		灯台が立っている海辺やかな風が吹いている (1名)						
		爽やかなちょっと肌寒い5月の朝、5月の風 (1名)						
		さびしいような切ないような。風の中考え事をしている。(1名)						
		風の中考え事 (1名)						
		ハンモックに寝ていて木の葉がかすれたり、風がやんだり (1名)						
		木漏れ日が差している中風が吹いている (1名)						
		緑一面の草原に風が吹いている感じ (1名)						
		風がそよぐ感じ、春のおとずれ (1名)						
		河川敷を歩きつつ、いい風を感じている (1名)						
		おだやかで平和、涼しい風、少し寂しい感じ (1名)						
		春から夏に変わる風がそよそよと吹いている (1名)						
		春から夏に変わる風がそよそよと吹いている。新緑、花畑の公園のイメージ (1名)						
		風で葉っぱが揺れる音 (1名)						
		オープンテラスでコーヒーを飲みながらくつろいでいる所に温かい風が吹く (1名)						
		風に舞う白いハンカチ (1名)						
		しっとり夕方に穏やかな風が吹いている (1名)						
		風がのんびりと吹いている、時間がゆっくりまったりしている (1名)						
		日差しは強すぎないほかほかした良い天で涼しい風が吹いている (1名)						
		緑の綺麗な丘で木につり下げたハンモックで気持ちの良い風が吹く (1名)						
		木漏れ日が差し込む家の窓、揺れる薄いカーテン、さわやかな風 (1名)						
		夕暮れにそよそよなびく草と雲と時々人間 (1名)						
		5月の春らしい風が吹いていて草がさらさらと流れている (1名)						
		時々風が止んだりしているのを寝転がって草の音をきいている (1名)						
		「風」という言葉が文章の中に入っていない			木洩れ陽、初夏の新緑などのさわやかさ、のどかな感じ (5名)	27名		
								穏やかな大地、自然、きれいな空 (5名)
								どこかなつかしくて、心が緩やかに揺れて、坂で夕日を見つめている (2名)
								海の家が始まる前の時期 (2名)
								単調で穏やかな印象。時間で言うなら空がオレンジの頃 (2名)
								心地よい春の陽気を感じる (1名)
								緑豊かな小島のさえずる声が聞こえ、近く池のある公園の道を歩いている (1名)
								ゆっくりとはかない物語の終盤 (1名)
穏やかな晴れた日の午後、高校生が屋上で昼食をとっているような、青春っぽいイメージ (1名)								
草原で女の子が黄昏れているようなイメージ (1名)								
よく晴れた日の朝 (1名)								
草むらで寝転んで雲を見ている (1名)								
穏やかな朝の海のさざ波 (1名)								
悲しい別れの朝 (1名)								
高校のバイクでの帰り道。田んぼと森、晴天と夕暮れ (1名)								
あたたかいけれど、どこか淋しい (1名)								

(表作成：多田茉央)

デザイン概論 シンボルとイメージについて 実施日時：2014 年 5 月 22 日 11:30 ～ 12:00 学生数：59 名  
設問：「この曲」を聴いて

(表 2)

全体のイメージ	イメージ	具体的なイメージ記述	人数	大きな印象
「5月の風」のイメージが前提とならない	夕日	夕焼けの丘で父と息子が夕日をみている (1名)	9名	おだやか、やすらぎ、癒し、さわやか
		1日の出来事を思い出しながら沈んでいく夕日を見つめている様子 (4名)		
		海を目の前にした夕日の中でゆっくりと時間が過ぎていく (1名)		
		夏の終わりの頃の夕方、海辺を歩きながら黄昏れている雰囲気 (1名)		
		有名なハワイの夕日を眺めながらただ静かに浜辺に座って時間が過ぎていくのを感じている情景 (1名)		
		夕方の帰り道に夕日を感じながら帰っている学生 (1名)		
	故郷	故郷との別れ (1名)	8名	
		故郷やのどかなイメージ。日本よりは外国の田舎の感じ (1名)		
		昔の楽しかった思い出を思い出している (2名)		
		夏に家族で訪れた砂浜での出来事を自分が一人で旅立つときに思い出す (1名)		
		昔の記憶 (3名)		
	風	海が見える草原、柔らかな風の中で (1名)	4名	
		初夏のそよ風とうたた寝 (1名)		
		春の清々しい爽やかな草原に優しく柔らかな風が吹いている (1名)		
		広い草原の中で爽やかな風が吹いて、花や草木などがそれに呼応してゆれている (1名)		
	朝	東の方からゆっくりと太陽が昇り、カーテンの隙間から朝日の光が入り込んでくる (1名)	4名	
		薄暗い朝の感じ (1名)		
		朝、窓から見えているのは海 (1名)		
		春のすがすがしい午前中に晴天のゆっくりと流れる雲の間から差し込む太陽の光を意欲で浴びている (1名)		
	ひだまり	海辺暑すぎず寒すぎず。穏やかな日差しの中ゆるやかに時間が流れていく (1名)	2名	
		心が透き通るような安定を得ているイメージ (1名)		
	夏	夏の終わり (1名)	2名	
		丘下がり、波打ち際をワンピースを着て変な帽子をかぶった女の人がゆっくり歩いていく (1名)		
	海	涼しい風が吹く初夏の海 (1名)	2名	
		南国で夕日をバックに一人で海を眺めている (1名)		
	その他	小さな小屋のある広い草原で、青空に雲が流れている (2名)	28名	
		夏に遊びに行った車で夕日の帰り道、車のラジオから流れる (1名)		
		夕方に車内から海と夕日を見るようなどこか淋しげなイメージ (1名)		
1日の始まりから終わり (2名)				
海辺の近くの家で一人暮らしをしている少年の休日 (3名)				
港町のお昼 (1名)				
一週間、日常 (4名)				
秋の公園 (1名)				
傷ついて辛い事があった主人公が草原、自然に包まれて励まされる (1名)				
羊飼いの夕暮 (2名)				
野原で友達に悩み相談をして元気づけてくれる (1名)				
雨上がり、水たまりがキラキラ輝いている (1名)				
降っていた雨が止み、葉などから雫が滴る中、雨宿りしていた虫や動物達が顔をのぞかせる (1名)				
のどかな山で小川が流れていて下降して川に流れていく (1名)				
冬の夜に、消灯、ひとりぼっち (3名)				
夕涼み (1名)				
夏の訪れ (1名)				
星空の散歩道 (1名)				

(表作成：多田茉央)

言葉はイメージ決定の要因となるか？

2012年5月17日（木）調査用紙「5月の風」を聴いて 学生作成

デザイン概論 シンボルについて

学籍番号：

氏名：

「5月の風」を聴いて

1. この曲を聴いて、あなたはどんなイメージが心に浮かびましたか？  
言葉で述べてください。

土々やか・緑一面の草むらに風が吹いている感じ

2. あなたが言葉で述べたイメージをスケッチにより視覚化してみてください。



3. 全体的な感想があれば、お願いいたします。

デザイン概論 シンボルについて

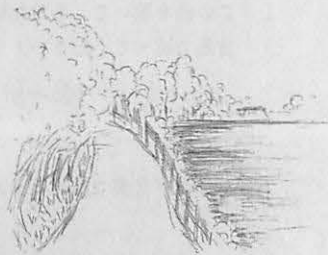
学務番号: 10000000000000000000 氏名: 〇〇〇 〇〇〇

【5月の風】を聴いて

1. この曲を聴いて、あなたはどんなイメージが心に浮かびましたか？  
言葉で述べてください。

緑豊かな公園の道が曲がりくねっている感じ。  
（この公園を私が園に遊びに来た時がありました）

2. あなたが言葉で述べたイメージをスケッチにより視覚化してみてください。



3. 全体的な感想があれば、お聞かせいたします。

5月の月も 5月の風 個人的にすごく好きです。

デザイン概論 シンボルについて

学籍番号: 氏名:

[5月の風]を聴いて

1. この曲を聴いて、あなたはどんなイメージが心に浮かびましたか？言葉で述べてください。

「この曲のイメージは、春の風が吹く感じ、緑が青々として、花が咲いて、鳥が鳴いて、心が穏やかになる感じがする。」

2. あなたが言葉で述べたイメージをスケッチにより視覚化してみてください。



3. 全体的な感想があれば、お聞かせください。

「この曲と絵が、とてもいい感じに合っているように思います。」



言葉はイメージ決定の要因となるか？

2014年5月22日(木) 調査用紙「この曲を聴いて」を聴いて 学生作成

デザイン概論 シンボルとイメージについて

学籍番号：

氏名：

1. この曲を聴いて、あなたはどんなイメージが心に浮かびましたか？  
曲の題名とその世界感を言葉で述べてください。

題名：「夕方の帰り道」

夕方の「帰り道」に夕日を感じながら帰っている学生。  
あちった雰囲気がある。

2. あなたが題名と言葉で述べたイメージを、スケッチにより視覚化してみてください。



3. 全体的な感想があれば、お願いいたします。

スローな感じで、時間かゆ、くそと、あちった感じがしました、  
あちった中に少しかなしい、しみみした感じも入っているなと  
私は感じました。

デザイン概論 シンボルとイメージについて


学種番号: 氏名:

1. この曲を聴いて、あなたはどんなイメージが心に浮かびましたか?  
曲の題名とその世界感を言葉で述べてください。

題名:「あつたふとまて」

夕方の人の少ない海岸を思い浮かべました。  
遠くに海が広がって、まもなく日が沈んでいくかんじ。  
1人の人がうきうきと海に泳いでいる。  
ふと気がついた。

2. あなたが題名と言葉で述べたイメージを、スケッチにより視覚化してみてください。



3. 全体的な感想があれば、お願いいたします。

聴いていて、とても心が良くなりました。  
静かになりました。

デザイン概論 シンボルとイメージについて


学号番号: 氏名:

1. この曲を聴いて、あなたはどんなイメージが心に浮かびましたか？  
曲の題名とその世界感を言葉で述べてください。

題名: 雨上がりの空の下

雨上がりの空の下、雲がどろどろとくちがれ、空の中  
雨どろどろとくちがれ、雲がどろどろとくちがれ、空の中

2. あなたが題名と言葉で述べたイメージを、スケッチにより視覚化してみてください。



3. 全体的な感想があれば、お願いいたします。

おもしろい曲です。イメージが湧きました。